



「あきたのそこちから」に学ぶ 長期的な視点で、自ら学ぶ力を育てる！

城南小学校では、「自ら学ぶ力」を育成するために、家庭学習「一人勉強ノート」に全体で取り組んでいます。本号では、秋田県における、**長期的な視点を持ち、自ら学ぶ力を育てる地道な取組**を紹介します。

家庭学習に関する城南小学校の先生方の声

低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で内容を定める経験を積ませようとしている。 ○児童が計画を立てて取り組めるようにしている。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○担任は「学習カード」で、児童の家庭学習の内容を把握している。 ○内容が不十分な場合には、「今、大切な学習は何か？」と、問いかけることにより、自分で計画する力を高める指導を行っている。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○課題をやらせるのではなく、自主的、計画的に取り組むことで、自律的に物事に取り組む児童の育成を目指している。 ○努力を認めた上で、力を高めるためにはどうすればよいのかを問いかけ、考えさせている。



6年生の「学習カード」

6年 一人勉強&音読がんばりカード (6月)

名前 _____ 番 _____

継続は力なり!

日	曜日	勉強の内容	音読	評価	物がまえ	時間	家	先生
1	月					分		
2	火					分		

城南小学校の先生から、共通して出てきた言葉 ~学校全体で大切にしていること~

①「自分で計画して、実践する力を育てる」

城南小学校では、学校全体で、6年間を見据えた長期的な視点を持ち、児童が低学年から自分で計画することを意識して、家庭学習に取り組んでいます。また、**進学先の中学校でも同様の取組をしており、9年間を通して力を付けることができます。**親世代も「一人勉強ノート」に取り組んでおり、地域に根付いた取組になっています。

②「問いかける」

学年によっては、児童にノートを2冊用意して交互に使うことで、担任の先生がコメントを書く時間を確保しています。そのコメントは、**問いかけることを意識しています。**指示ではなく、問いかけることで、児童の「自ら学ぶ力」が育てられます。

家庭学習の スタンダード 増補版

児童生徒に家庭学習を課すのは、先生です。その先生が、どんな意図で、どんな力を付けたいと思って家庭学習を課すかによって、児童生徒の取り組み方も違ってきます。

令和元年5月に岡山県教育委員会が作成した『家庭学習のスタンダード 増補版 家庭学習指導のすすめ』には、宿題だけでなく自主学習にも取り組むことの大切さが書かれています。家庭学習では、効率よく知識・理解の定着を目指す短期的な視点だけではなく、自主学習を通して、生涯にわたり自ら学び続ける「**自律的学習者**」を育てる長期的な視点も大切です。

<視点1> 学校全体で組織的に取り組もう

家庭学習の内容と量の改善に向けて、まずは各校において、家庭学習に関する「現状の把握化」を行い、全校職員で定着しつなげる家庭学習についての「共通理解」を図りましょう。



<視点2> 家庭学習は「自律的自主学習」と共通理解しよう

「家庭学習」は、学習内容を身に付けるための定着として、**教員が個別指導を担うもの**です。宿題の採点・評価では、定着度の把握に重点を置き、定着が不十分な内容を授業内で確認したり、補習学習で個別の定着支援に似た指導を行うなど、定着度を確保したフィードバックを行うことで、定着度を高められるようになります。

- 自主学習の指導については、次の点にも留意しましょう。
- ① 内容は単科から生徒任せにするのではなく、生徒のレベルに応じた取組を指示する。
 - ② 生徒・科担任が教員が行うのではなく、学習室で行う。その際、担任任せせず、副担任等と分担して行い、進捗を確認する。
 - ③ 採点だけで終わらせるのではなく、詳細な評価コメントを生徒に送達するよう実施する。

Feedback

意欲を引き出す評価をしましょう

★ 生徒の押印のみで進捗していること・・・

意欲を削ぐ
学習意欲の低下
学習意欲が伸びない
学力向上に結びつかない

★ 「生徒・科担任の工夫」をしっかりとすることによって・・・

しっかり点検する → 評価を認める → 必要な支援をする → 学習意欲が伸びる → 継続力につながる → 家庭学習が習慣化する